

泉南市立小学校、中学校、幼稚園の耐震診断・補強状況一覧表(平成27年4月1日現在)

【中学校】

学校名	施設の名称	建築年	構造	階数	面積(m <sup>2</sup> )	耐震基準 (※1)	優先度調 査ランク(※ 2)	第2次診断結果		補強後耐震性能		補強年度	現状及び今後の計画
								Is値(※3)	CTU×SD 値(※4)	Is値(※3)	CTU×SD 値(※4)		
泉南中	校舎棟	S33 S34	鉄筋	3	1,614	旧	-	0.41	0.57	0.79	0.85	H19	補強済
	校舎棟	S34 S34	鉄筋	3	2,484	旧	-	0.40	0.28	0.73	0.81	H19	補強済
	校舎棟	S36	鉄筋	3	678	旧	-	0.29	0.38	0.73	0.44	H19	補強済
	校舎棟	S49	鉄筋	3	564	旧	-	0.69	0.34	0.71	0.35	H19	補強済
	管理棟	S37	鉄筋	1	270	旧	-	0.31	0.43	0.85	0.94	H19	補強済
	技術教室棟	S38	鉄筋	1	395	旧	-	0.99	0.58	-	-	-	耐震性有
	特別教室棟	S58	鉄筋	3	728	新	-	-	-	-	-	-	耐震性有
	体育館	S35	鉄骨	2	1,052	旧	-	0.23	0.27(q値)	0.73	1.75(q値)	H19	補強済
西信達中	校舎①棟	S33	鉄筋	2	493	旧	-	0.23	0.30	0.80	0.84	H20	補強済
	校舎②棟	S32	鉄筋	2	405	旧	-	0.23	0.30	0.80	0.84	H20	補強済
	校舎③棟	S36	鉄筋	2	417	旧	-	0.60	0.63	0.77	0.68	H20	補強済
	校舎⑤棟	S44	鉄筋	2	436	旧	-	0.34	0.32	1.15	1.23	H20	補強済
	特別教室棟	S48	鉄筋	2	443	旧	-	0.32	0.36	0.80	0.33	H23	補強済
	便所棟	S51	鉄筋	2	105	旧	-	0.36	0.50	0.74	0.64	H23	補強済
	特別教室棟	S51	鉄筋	1	496	旧	-	0.79	0.87	-	-	-	耐震性有
	技術教室棟	S45	鉄筋	1	240	旧	-	0.42	0.58	0.73	1.02	H23	補強済
	体育館	S46	鉄筋	2	895	旧	-	0.04	0.03	0.91	1.01	H21	補強済
	一丘中	校舎・管理棟	S50	鉄筋	4	3,376	旧	-	0.32	0.34	0.71	0.50	H21
校舎渡り廊下		S50	鉄筋	3	921	旧	-	0.23	0.32	0.72	0.81	H21	補強済
特別教室棟		S50	鉄筋	3	2,227	旧	-	0.32	0.34	0.71	0.52	H21	補強済
教室棟		S60	鉄筋	4	396	新	-	-	-	-	-	-	耐震性有
体育館		S50	鉄筋	2	1,083	旧	-	0.31	0.18	0.97	1.01	H18	補強済
信達中	校舎・管理棟	S52	鉄筋	4	1,786	旧	-	0.44	0.46	0.74	0.65	H22	補強済
	教室棟	S52	鉄筋	4	1,919	旧	-	0.43	0.45	0.71	0.75	H22	補強済
	渡り廊下棟	S52	鉄筋	4	261	旧	-	0.36	0.31	0.74	0.51	H22	補強済
	特別教室棟	S52	鉄筋	4	1,433	旧	-	0.46	0.49	0.79	0.68	H22	補強済
	技術教室棟	S52	鉄筋	1	324	旧	-	1.22	0.83	-	-	-	耐震性有
	下足室棟	H6	鉄筋	2	363	新	-	-	-	-	-	-	耐震性有
	校舎	S59	鉄筋	4	453	新	-	-	-	-	-	-	耐震性有
	体育館	S52	鉄筋	2	1,016	旧	-	0.07	0.03	0.75	0.79	H22	補強済

【小学校】

学校名	施設の名称	建築年	構造	階数	面積(m <sup>2</sup> )	耐震基準 (※1)	優先度調 査ランク(※ 2)	第2次診断結果		補強後耐震性能		補強年度	備考
								Is値(※3)	CTU×SD 値(※4)	Is値(※3)	CTU×SD 値(※4)		
新家小	管理棟	S42 S52	鉄筋	2	479	旧	-	0.08	0.16	0.73	0.73	H21	補強済
	校舎南棟	S50	鉄筋	3	1,507	旧	-	0.37	0.39	0.77	0.81	H24	補強済
	校舎北棟	S52	鉄筋	3	1,172	旧	-	0.43	0.48	0.72	0.80	H24	補強済
	特別教室棟	S55	鉄筋	3	447	旧	-	0.43	0.48	0.72	0.80	H24	補強済
	体育館	S51	鉄筋	2	725	旧	-	0.38	0.24	1.05	1.17	H22	補強済
信達小	管理・特別教室棟	S40	鉄筋	2	1,475	旧	-	0.21	0.28	0.73	0.79	H20	補強済
	校舎南棟	S40	鉄筋	2	1,551	旧	-	0.31	0.24	0.71	0.39	H20	補強済
	校舎低学年北棟	S40 S43	鉄筋	1	448	旧	-	1.29	0.66	-	-	-	耐震性有
	校舎低学年南棟	S40 S42	鉄筋	1	448	旧	-	1.29	0.66	-	-	-	耐震性有
	校舎西棟	S45 S47	鉄筋	2	433	旧	-	0.34	0.38	0.87	0.47	H20	補強済
	体育館	H12	鉄筋	2	1,244	新	-	-	-	-	-	-	耐震性有
東小	管理棟	S41	鉄筋	1	312	旧	-	0.72	0.78	-	-	-	耐震性有
	校舎	S46	鉄筋	2	414	旧	-	0.51	0.41	0.79	0.41	H26	補強済
	特別教室棟	S53	鉄筋	2	690	旧	-	0.65	0.33	0.81	0.88	H26	補強済
	廊下棟	S53	鉄骨	2	13	旧	-	0.51	0.41	0.79	0.41	H26	補強済
	体育館	S53	鉄筋	1	553	旧	-	0.40	0.13	1.21	1.27	H25	補強済
西信達小	校舎・管理棟	S48 S49 S53	鉄筋	3	2,307	旧	-	0.22	0.29	0.73	0.40	H21	補強済
	校舎棟西	S45	鉄筋	2	762	旧	-	0.43	0.45	0.83	0.94	H21	補強済
	校舎棟東	S40	鉄筋	2	581	旧	-	0.40	0.31	0.73	0.54	H21	補強済
	便所棟	S45	鉄筋	2	122	旧	-	0.71	0.75	-	-	-	耐震性有
	体育館	S49	鉄筋	2	662	旧	-	0.50	0.26	1.39	1.54	H20	補強済
樽井小	校舎・管理棟	S56	鉄筋	2	832	旧	-	0.75	0.35	-	-	-	耐震性有
	校舎北棟	S51	鉄筋	3	1,176	旧	-	0.36	0.33	0.73	0.31	H25	補強済
	校舎中棟	S56	鉄筋	3	1,104	旧	-	0.47	0.30	0.72	0.30	H25	補強済
	校舎南棟	S56	鉄筋	3	1,411	旧	-	0.47	0.30	0.72	0.37	H25	補強済
	特別教室棟	S55	鉄筋	3	462	旧	-	0.36	0.33	0.73	0.31	H25	補強済
	校舎西棟	S44 S46	鉄筋	2	412	旧	-	0.48	0.42	0.92	0.42	H25	補強済
	下足室棟	S56	鉄筋	2	238	旧	-	0.95(※5)	0.50(※5)	0.95(※5)	0.50(※5)	H25	補強済
	廊下棟北	S56	鉄筋	2	34	旧	-	0.75	0.35	-	-	-	耐震性有
	廊下棟南	S56	鉄筋	2	127	旧	-	0.18	0.18	1.04	0.74	H25	補強済
	体育館	S51	鉄筋	2	893	旧	-	0.68	0.22	1.32	0.59	H21	補強済



※1 昭和56年(1981年)6月1日の建築基準法施行令の改正による耐震性能に関する基準が新耐震基準であり、それ以前の基準が旧耐震基準となります。

※2 優先度調査ランクは、建物の建築年、構造形式、コンクリート強度、耐震壁などから第2次診断実施の優先順を判断するための調査のことで優先度の高い順に1から5までのランク付けを行う。

※3 「 $I_s$ 値」は、第2次診断の結果、建物の粘り強さに形状や経年等を考慮して算出される構造耐震指標で、その最小値を標記する。 $I_s$ 値が0.6以上で耐震性能を満たすとされるが、文部科学省では、補強後の $I_s$ 値はおおむね0.7を超えることとしています。

$I_s$ 値(構造耐震指標)

$I_s$ 値

0.3未満	大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊又は崩壊する危険性が高い
0.3以上0.6未満	大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊又は崩壊する危険性がある
0.6以上	大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊又は崩壊する危険性が低い

※大規模な地震とは、震度6強から震度7程度の地震を想定しています。

※4 「 $CTU \times SD$ 値」は、建物の形状などを考慮し耐震性能を表した数値。  
 $CTU$ 「建物の持っている強度を表す値」と $SD$ 「建物の平面、立面形状によって決まる値」の積で表し、0.3以上が目標値。

「 $q$ 値」は、建物が水平方向の力に耐えられる力の指標で、1.0以上が目標値。

※5 樽井小学校の下足室棟は、 $I_s$ 値および $CTU \times SD$ 値は基準を満たしているものの、構造物である外壁が水平震度1.0の面外方向の地震力に対して、曲げ耐力が不足しているため、補強を実施します。